会　　議　　録

会議の名称	平成２８年度第２回富士見市社会教育委員会議
開 催 日 時	平成２８年５月２０日（金）午後７時００分～９時００分
開 催 場 所	教育委員会　会議室
出　席　者	本間雄一委員、長ケ原美博委員、吉田廣子委員、 小森重紀委員、武田秀規委員、大根田良夫委員、 岩村沢也委員、千葉純平委員、撥木道代委員 事務局
欠　席　者	田尻　円委員
公開・非公開	公開（傍聴人　０人）
会 議 次 第	１．協議事項 （１）今年度の議題および進め方について ２．報告及び連絡事項
会 議 資 料	定期刊行物
会議録確認	本間雄一委員

会　議　内　容（要点記録）
◇ 開　会 　○議長あいさつ １．協議事項 （１）今年度の議題および進め方について 　事務局より。昨年度の会議において出されたキーワードを列挙。①雇用や少子化　②所得格差と女性の就労　③雇用機会の均等・男女協働参画　④子どもの自己肯定感　⑤他市町の取り組みを視察を提示。 【議長】今年度が、任期２年目となるため、そろそろ方向性を決めていく時期になった。どのテーマでいくか、意見をいただきたい。 【委員】教育委員会に提示できるようなものでなくても、意見として集約できるものができれば良いのではないかと思う。キーワードでも、所得格差や雇用をテーマとすると、社会教育の視点では限界があるような気がする。 【委員】地域のスポーツ少年団などをみていると、子どもをどうやって育てるかということで迷っているように思う。各種団体が、子どもたちにどうやって接するかというのが伝えられるとよいと思っている。社会教育委員もいろんな団体に関わっていることから、団体として、子どもたちに伝えられることができるとよい。 【委員】富士見市もららぽーとができたりするなど、市としてはとても住みやすくなった。先日、学校の支援者協議会に行ったが、本当に子どもの態度が良かった。 【委員】子どもというと、学力と不登校の課題がある。ピアサポートとして、教育相談室を中心に各学校で取り組んでいる。先日、熊谷市の教育長の話を聞いた。熊谷市では通塾できない子どもを募り、土曜日などに補習を行っている。それが効果をだしているときいた。退職する教員も今後は増える。システムを整えて、環境を整えると、子どもの学力に微力ながら協力でき、学校教育を側面から支援できるのではと思った。あと、フリースクールの課題も、今国会で取り上げられると思うが、不登校の課題と関連が強い。 【委員】地域で、子ども教室を行っているが、ボランティアを募るのも大変な状況がある。学校の運営支援者協議会の委員の方で、退職された先生が子どもの受け皿として勉強を教えていると聞いた。地域にそういう場所ができてくると、子どもの居場所としていろんな形で子どもを支えていけると感じた。 【事務局】もともと、水谷公民館で行っている地域子ども教室も、スタートは子どもの居場所ということで、宿題をやったり、家に帰っても一人だったりする子を対象に、公民館で一緒に過ごすということからスタートしたと聞いている。また、自治体によっては、子ども教室の事業で補修を行っているところもある。富士見市はどちらかというと、遊びをやっているところが多い。 【委員】テーマの話にもどるが、②と③はテーマが大きすぎて、イメージがつかない。放課後児童クラブの役員を今年度やることになった。やはり子どもに関わることがテーマだとイメージができる。

【委員】大学で公開講座などをやっていると、後期高齢者の方が増えてきているように感じる。終活という言葉もあるが、人生全体を見据えて、みんな大きなテーマとしてもっているように思える。また、一方で、学生をみていると、障害を抱えている学生が多い気がする。障害と直接関わりはないかもしれないが、記憶の容量が小さい。ひとりひとりケアしないといけない状況がある。昔は大教室で大勢を対象に講義をしていたが、今はそれができない現状がある。少子化に伴い、全入制の時代がきて、経済的な部分も作用すると思うが、ゼミ生も９人いたが、現在は５人。４人は経済的な理由で辞めてしまった。どこの部分でケアできたのか考えるが、大学に入るとすぐに多くの学生がアルバイトを始め、サークルなどに入らない傾向がある。勉学にしても生きる力についても、また遊ぶ力についても、もう少し大学生らしい生活を送ることができたら身につけられたかもしれないと考える。大学でケアできる部分として、個別に声をかえ、相談にのったり、年度当初にシートを書いて何のために、講義を受けるのかというような、マンツーマンで行っている。就職活動にしても、個別対応で、大学がカウンセラーのような役割になってきている気がする。もう少し自分自身で考え、動ける学生を育てないといけないと感じている。子どもを地域で育てるという視点は、とても必要で、事業で関わっている「子ども大学」にしても、異年齢交流はとても効果が期待されるところで、学生の力の大きさを改めて感じる。学生たちが、一時でも小学生と一緒に過ごしたということが、記憶に残ってくれれば、また、変わってくると思っている。それが、生きる力や動く力にかわってくると思う。

【委員】今、みなさんの話を一通り伺ったところ、大きい枠だと「家庭教育」ということになると思うが、「子ども」に焦点が当たっていると思う。どこまでを「子ども」とするかという部分はあるが。居場所、学力、学習支援、がキーワードになるのではと感じる。

【委員】家庭のあり方や子どもの育て方について、「こうあるべき」という考え方があるが、今はいろんな生活スタイルがあり、家族のあり方も様々で、「べき」というのでは縛れない現状がある。例えば、不登校にしても、以前は、「学校に行きなさい、学校に行かないのはおかしい」とする見方が大半だったが、今は「学校へいかなくてもいいじゃないか」という考え方がある。不登校だった子どもでも、成人して社会人として生活できている事例はある。不登校の時に、親としては学校に行ってくれている方が安心するが、「行かない」という選択肢があることも認めてあげないと、その子どもの居場所が本当になくなってしまう場合がある。そのときに、「こうあるべき」という考え方は、子どもの居場所をなくしてしまう考え方になりかねない。子育てや家庭の在り方についても、それは同様にいえることだと思う。固定概念を外したうえで、また今ある現状を認めたうえで、子どもたちの居場所や学力支援について考えるのがよいと思う。

【委員】不登校やいじめなど、体験をした子どもがそれを乗り越えた時の成長は、その子どもの中で良い意味で大きな変化があることは事実だと思う。その後の他者との関わりや、生きる力という部分に与える影響は大きい。

【委員】最近関わった大学生で、親の希望する大学に合格することができず、志望とは異なる大学に行っている人がいた。親からの強い圧力が少なからず影響しているようで、目をみて話すことができない。自信を喪失している表れと感じた。

何かを乗り越える時というのは、家庭なり学校なり、どこかに居場所がないとできないのではないかと思う。先日、異年齢交流ができる機会があり、そこにその大学生が参加した。下の学年の子どもたちに慕われている状況があり、そこが今後大学生の居場所になっていくとよいと感じている。

【委員】地域によっても異なるが、小学校・中学校・高校まである地域がある。鼓笛隊と吹奏楽、ミニバスとバスケット部など、縦のつながりができている地域もある。

【委員】まとめ方として、報告書のかたちがよいと思う。「家庭教育」ではテーマが大きすぎ、家庭教育支援会議が立ち上がっているので、それが今後機能していくと思われる。そのため、子どもに焦点を定め、居場所や学習支援をテーマとして、方法論を提案に近いかたちで示せると、自分たちが関わっている団体の中で実践できるのでは、また、それが地域の活性化や子どもたちの育ちにつながるのでは、という部分を導き出していくのはどうか。

【委員】いいと思う。

【委員】学校応援団は近年本当に盛んに行われている。地域子ども教室などは、学校にもよると思うが高齢化の問題がある。子どもの居場所も必要だが、高齢者の居場所も必要。子どもと高齢者がうまくマッチングすると、とてもよいと考える。

【委員】何事にも、具体的に施策に反映させるためには、理論が必要となる。ただ単に、「これがいい」というのでは形にならない。やはり、委員の方からこれだけたくさんの意見が出てくるので、報告書として、「こういう現状がある、故にこういう事業が必要」というものがまとめられるとベストだと思う。

【委員】テーマが決まったところで、先ほどの異年齢交流など、地域性はあるにしても、富士見市のどこでどんな事業があるのかというのが共有されていない気がする。資料として、何かそれらわかるようなものがあると、事例として、話が膨らむのではないか。

事務局より。各委員が所属する団体で活動する中で、子どもの居場所・学習支援・その他として、いろいろ感じる点を列挙してもらい、事務局へ提出。それを元に、次回会議の資料とする。

２．報告及び連絡事項

◇５月１０日　入間地区社会教育協議会　総会　（武田委員・長ケ原委員出席）
◇５月１７日　入間地区社会教育協議会社会教育委員部会（　〃　）

３．その他

次回会議日程

平成２８年度第３回会議

日程：平成２８年６月２４日（金）午後７時～

場所：教育委員会　２階　会議室

３．閉会　○副議長あいさつ